

1 病気の説明

ポリオは、かつては「小児麻痺」とも呼ばれ、わが国でも1960年代までは流行を繰り返していましたが、現在では予防接種の効果で、国内での自然感染は報告されていません。

しかし、現在でもインド、アフリカなどではポリオの流行があることから、これらの地域で日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。

ポリオウイルスは、ヒトからヒトへ感染します。感染した人の便中に排泄されたウイルスが口から入り、のど又は腸で増殖し、数週間にわたって便中に排泄されます。

感染しても大部分の人は無症状ですが、5%くらいに、のどの痛み、発熱などのかぜ様症状がみられます。また、感染した人の1～2%は無菌性髄膜炎を発症しますが、2～10日で軽快します。

しかし、感染者の1,000人に1人は、麻痺を起こし、後遺症として運動障害を残す場合があります。ときに、呼吸不全をおこして死亡することもあります。

2 予防接種の方法

生後3か月～90か月未満の間に初回接種3回（20日～56日の間隔をあけて）、追加接種1回（初回接種3回終了後、12か月～18か月を経過した時期）の計4回、不活化ポリオワクチンを接種します。

(1) 当分の間、56日以上の間隔を置いて接種することができます。

なお、追加接種については、国において4回接種（追加免疫）後の有効性、安全性が確認されたので、平成24年10月23日から、4回目の追加接種を定期接種（無料接種）として受けることができるようになっていきます。

(2) 平成24年9月1日より前に経口生ポリオワクチンを1回接種した方については、ポリオの定期予防接種を1回行ったものとし、海外等で不活化ポリオワクチンを受けた方も含めて、既に接種した回数分のポリオの定期予防接種を受けたこととなります。

3 予防接種の救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

予防接種による健康被害が生じた場合は、各区の福祉保健センター又は健康福祉局健康安全課へご相談ください。

(裏面あり)

4 予防接種に当たっての注意事項

予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。

また、お子様が以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

ア 明らかに発熱（通常37.5℃以上）をしている場合

イ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合

ウ 予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある場合

エ その他、医師が不適當な状態と判断した場合

次の方は接種前に医師にご相談ください。

ア 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子様

イ 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子様又は発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子様

ウ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子様

エ 過去に免疫不全の診断がなされているお子様又は近親者に先天性免疫不全症の方がいるお子様

オ ワクチンの製造過程で培養に使う各種成分に対してアレルギーをおこすおそれのあるお子様

5 接種後の注意

- 接種後30分間は、医療機関でお子様の様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応がこの間に起きることがあります。
- 接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 接種当日は、激しい運動を避けてください。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

6 みられることがある症状

不活化ポリオワクチンの接種後に、他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤（赤み）や腫脹（腫れ）です。また発熱もみられます。重い副反応として、(1)ショック・アナフィラキシー様症状、(2)けいれんが報告されています。